２　学校および社会との連携

［概　要］

広報普及事業は，歴博の研究活動や，それを基礎とした博物館活動を広く館外に紹介し，また利用者を支援して，日本の歴史と文化の幅広い理解を図ることを目的としている。

そのために開館当初からさまざまな事業を行ってきたが，近年は特に学校との連携に力をそそぎ，学校教員が積極的に博物館を活用できるための支援体制を強化している。また，大学の留学生教育にも関わることで，国際的な活動も展開している。

小・中・高等学校の教員を対象として行っている「先生のための“すぐできる！歴博授業づくり”講座」および「博学連携研究員会議」は学校との連携を目的とした事業の中核となるものであるが，「博学連携研究員会議」は2020年度で２カ年を１期 とする第６期が終了した。2008年にスタートした常時開設の体験コーナー「寺子屋れきはく」の登録ボランティアでは，2015年度に募集範囲の拡大を試み，順調に運営している。2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では，新しい体験学習プログラムを順次拡充したほか，これまでのプログラムの評価・改善を試みている。

これまでの活用状況を検証しながら，歴博と学校および社会とのよりよい連携の方向性の模索を続けることが今後も必要である。

広報連携センター　島津　美子

［ファミリー向けプログラム］

れきはくこどもワークシート

本館では，小学生・中学生を対象とした「れきはくこどもワークシート」を作成しており，小学校・中学校団体等の見学や事後学習を効果的に行えるように作成した「歴史と話そう」や，展示資料の観察を主眼とした「さがしてみよう」（小学校１～２年生対象），「じっくりみよう」（小学校３年生以上対象）がある。2021年３月現在，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，配付を休止している。

れきはくをかこうよ

「れきはくをかこうよ」は，小学生から中学生を対象とした，本館の展示を使ったスケッチ会として，2001年度より開催している。このプログラムは総合展示室を会場とし，好きな展示物を選んで写生するもので，絵を描いたあとに展示物の解説や作品へのコメントを当館の教員から受けることで，より展示物への理解と興味を高めようという試みである。完成した作品は本館ホームページの「子どもサイト」にて，画像を掲載している。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，開催を中止した。

歴博をつかった自由研究相談室

本館では，夏休みの期間中にエントランスホールに「自由研究相談」コーナーを設置し，本館学校対応職員及び小・中・高等学校の教員（博学連携研究員）を相談員として，小学校・中学校および高等学校の児童・生徒を対象に，夏休みの自由研究課題に関する相談を行っている。本館の展示資料に関連する図書の提供や展示資料の見方などを助言することにより，自ら課題を調べ，作品をつくりあげるための支援を目的とした取組である。また，自由研究相談室の参加者から出品を募り，作品の展覧会も実施している。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症の拡大防止を配慮し，「歴博をつかった自由研究相談室」の開催を中止した。

歴博をつかった自由研究相談室作品展

開催期間：2020年７月７日（火）～８月30日（日）開催場所：休憩室（第２展示室・第３展示室間）出品点数：２点

鋳造体験

「鋳造体験」は，2014年度に企画展示「弥生ってなに？！」の関連イベントとして行われたプログラムである。小学生以上の参加者が，「生駒銅鐸」「銅鏡」「銅銭」の鋳型に溶かした低融点合金を流し込み，ミニチュアを作製した。

2020年度の開催は下記のとおりである。

開催日：2020年８月10日（月・祝），８月11日（火），８月14日（金），８月15日（土）　開催場所：ガイダンスルーム
参加人数：73名

立体版れきはくをかこうよ

「立体版れきはくをかこうよ」は，小学生から中学生を対象とした，本館の展示を使ったスケッチ会の「立体版」である。2019年度より大日本印刷株式会社作成のペーパークラフト土偶（２種類）を用いて開催したプログラムである。このプログラムはまず，たいけんれきはく内にてペーパークラフト土偶を組み立て，それを第１展示室に持参して展示物を観察して写生するものである。展示物を細部まで立体的に観察することを目的とした試みである。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，開催を中止した。

［大学・大学院］

大学・大学院への対応

本館は，大学共同利用機関であり，大学における学術研究の発展などに資するために設置された。大学・大学院に対しては，講義やオリエンテーション，研修などで歴博の施設や展示・収蔵資料を活用してもらうために利用手続きの改善を図り，『大学のための歴博利用ガイド―歴博でアクティブ・ラーニング―』の冊子を作成・配布している。対応もこれに基づいて行っており，展示の見学だけでなく，本館の教職員によって，展示や館内施設の解説を行っている。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症対策を取りながら，４団体（学生延べ人数32名）について，上記のような対応を行った。

千葉大学留学生プログラム

千葉大学国際教育センターと国立歴史民俗博物館は，2009年10月から連携して，歴博の展示を教育および授業の素材として活用し，留学生の視点から「海外から訪問した人たちが日本の歴史や文化の展示をどのように見るのか，どのような点に注目してみたら母国の人たちがより分かりやすいのかを考える」というテーマのもとに，千葉大学の短期留学生が母国語でワークシートを製作する授業を開講している。2012年より，両機関の連携事業として正式に協定を締結して活動を行っており，これまで中国，台湾，韓国，ベトナム，タイ，インドネシア，ドイツ，オーストラリア，ポーランド，ロシア，トルコからの60名の留学生が各国語と日本語の２か国語でワークシートを作成した。2019年９月から2020年７月まで９名の留学生（中国，台湾）が受講した。なお，2020年３月～７月においては，オンラインでの授業を開催した。

完成したワークシートをプロジェクト紹介パネルとともに本館総合展示休憩スペースに並べ，来館者が閲覧できるようにするとともに，短期留学生が作成したワークシートについては，当館ホームページに掲載している。留学生が展示を通じて日本の歴史と民俗への理解を深めることは，歴博が推進する国際化という点でも重要である。また，留学生の視点を通じて展示の問題点を知ることは，外国人来館者への利便性を今後より充実させていくうえで基礎となるものであり，一定の成果を上げつつある。

［小学校・中学校・高等学校］

来館学校の対応・学校訪問

本館では見学に訪れた小学校・中学校・特別支援学校および高等学校等の団体見学に対して，展示室を見学する際のアドバイスとして，学校対応職員によるガイダンスやプログラムを学校側のニーズに応じて行っている。「ガイダンス」は260名までの人数を対象とし，「縄文時代のくらし」や「江戸時代における江戸のくらし」，「明治の学校の様子」などのテーマを用意している。「プログラム」は30名程度の人数を対象に，縄文･弥生土器の実物や，「洛中洛外図屏風」「江戸図屏風」など当館所蔵の資料をもとに作成した教材を利用して体験的に行われるものである。

2020年度においては，新型コロナウイルス感染症の拡大のため，小学校12件のみとなった。

中学校の職場体験や高等学校のインターンシップなどの受入も行っていたが，2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，受入を中止した。

博学連携研究員会議

学校の教員が「研究員」として，博物館と学校との連携の仕方を考え，授業として実践していくことを目的として実施している。後述の「先生のための“すぐにできる！歴史授業づくり”講座」などを通じて歴博の展示を活用した授業の取り組みに関心を持った教員が，さらにそれを深めていく機会としての役割も担っている。

２年間を１期として活動しており，2018年度まで５期行われてきた。2020年度は第６期の２年目であり，会議は下記の通り開催され，最終回会議ではこれまでの実践活動成果発表の場として，博学連携研究員のほか教育関係者を参加対象者とした「博学連携フォーラム」として開催した。

2020年８月23日（日）第４回会議　ガイダンスルーム
・博学連携研究実践計画に関わる協議
2020年12月20日（日）第５回会議（オンライン開催）
・博学連携研究実践報告に関わる協議
2021年１月24日（日）第６回会議　講堂・ガイダンスルーム
・第６回博学連携フォーラム

「先生のための“すぐにできる！歴博授業づくり”講座」

本館には，毎年多くの学校団体が訪れている。この講座では，小学校・中学校・高等学校の教員を対象に，本館の展示や展示資料の理解を深めるとともに，それらを利用した授業の方法について事例を紹介するなど，学校教育における博物館利用の推進を図ることを目的としている。内容は，展示室の解説，学校対応・教育教材の紹介，参加者によるグループワークなどである。

2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，開催を中止した。

佐倉市教育委員会教員研修

2020年度は，新型コロナウイルス感染症の拡大防止を配慮し，開催を中止した。

たいけんれきはく

2012年度末に開室した体験スペース「たいけんれきはく」では，新しい体験学習プログラムを順次拡充しており，2015年度は弥生土器パズル，2016年度は木製積木を導入した。2017年度は，アイヌ語カルタを開発した。また，大月ヒロ子氏を2015年度より当館客員教員として迎え，たいけんれきはくの設置からこれまでの活動内容を評価し，問題点や改善点等の検討をすすめている。

［社会連携］

2020年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止を配慮し，佐倉市との各種連携事業については開催を見合わせた。

民間との連携事業として，成田国際空港株式会社と連携し，成田国際空港国際線第２ターミナルにおいて，特別展示「光る江戸図で感じる日本」と題して，江戸図屏風の高精細画像を基に内照式の「光る江戸図」を製作し，「解説用ICT機器」と併せて展示（2020年３月12日から継続中）。2020年度の観覧者は，新型コロナウイルス禍のなかで，延べ230名であった。民間との連携によるアウトリーチ活動を通じて国際的な研究成果公開を推進した。

［登録ボランティア］

登録ボランティアは，2007年度までは企画展示で活動していたが，2008年３月18日に第３展示室がリニューアルオープンするのに伴い，2008年度からは寺子屋「れきはく」を主な活動の場とするようになった。当初歴博友の会会員のみが登録ボランティアとなっていたが，2014年度からは会員外の方も参加できるようになった。新型コロナ感染症拡大防止のため，2019年２月に寺子屋「れきはく」が休止となり，館内での登録ボランティアの活動は中止

をしている。2020年度は，７月以降，登録ボランティア活動委員会においてオンラインを中心に，感染症対策を織り込んだ，「新しい日常」の下での寺子屋「れきはく」再開室案開室に向けて議論を重ねている。登録ボランティア研修については，Zoomを利用したオンラインでの開催を企画展示等展示解説を中心に実施した。また『寺子屋「れきはく」かわら版』を月１回程度の頻度で発行し，登録ボランティア活動委員会や登録ボランティア研修の内容を中心に情報発信を行った。

１．登録ボランティア人数　89人（2020年８月11日現在）

２．登録ボランティア活動委員会，登録ボランティア総会及び登録ボランティア研修の実績

（１）登録ボランティア活動委員会（2020年４月～2021年３月）年５回開催，出席者延べ人数35名

（２）登録ボランティア総会　年１回開催，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（３）登録ボランティア研修（2020年６月～2021年５月）

	開催日	テーマ	講師	出席者数
1	2020年10月30日	事前Zoom研修	広報サービス室 島津　美子 福岡万里子	10名
2	2020年11月５日	事前Zoom研修	広報サービス室 島津　美子 福岡万里子	９名
3	2020年11月12日	企画展示「性差の日本史」	横山百合子	来館11名 Zoom参加35名
4	2020年12月１日	新人ボランティア研修	横山百合子	来館２名 Zoom参加６名
5	2021年３月29日	特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」	村木　二郎	来館８名 Zoom参加37名

［博物館・資料館］

歴史民俗資料館等専門職員研修会

歴史民俗資料館等専門職員研修会は，文化庁との協力関係のなかではじめられた博物館や資料館の職員のための研修会で，1983年からおこなわれている。２年を１期として毎年開催され，現在は，文化庁との共催となっている。講師は文化庁職員と当館教職員が主に担当している。参加者は全国から都道府県単位で募集されている。2020年度は２年目の実施を計画していたが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期された。